

## 研究結果報告書

### 研究結果

本研究は、1921年の芥川龍之介の中国旅行とその後刊行した旅行記『支那游記』を研究対象として、新資料の発掘と新視点による再評価を試みるものである。一年間の本研究を通じて、多くの事実を解明することができ、有益な研究成果は、シンポジウムでの発表や研究論文の発表という形で、公表することができた。

2012年4月刊行の『渡航する作家たち』（神田由美子/高橋龍夫編、翰林書房）に、報告者の論考「芥川龍之介 大陸で磨かれた小説家のジャーナリズム その中国観察と日本への再認識」が掲載された。本助成を受ける前の執筆だが、芥川龍之介の中国体験を総括的に捉えたこの論考は、報告者にとってはその後の研究展開の礎となった。

2012年11月24日、韓国漢陽大学主催の「東アジアの近代都市表象」国際シンポジウムに参加し、「上海・中国の表象としての湖心亭」と題する発表を行った。この発表の趣旨は、「上海游記」を主な材題とし、芥川の上海言説を比較文化的な視点から考察した内容であった。

日本での資料調査時の大きな成果のひとつに挙げられるのが、神奈川近代文学館で、当館所蔵の『上海消息』において、中国旅行期間中の芥川が上海在住の島津四十起に宛てた、全集未収録の書簡を確認することができたことである。この新資料に関する紹介を、国際芥川龍之介学会の紀要誌『芥川龍之介研究』第五、六合併号に発表した。更には、同号に掲載された「芥川龍之介上海観劇考」も、本研究の重要な成果のひとつである。

### 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「上海・中国の表象としての湖心亭」・秦剛・漢陽大学主催「東アジアの近代都市表象」国際シンポジウム・2012年11月24日・漢陽大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- (1) 「芥川龍之介上海観劇考」・秦剛・「芥川龍之介研究」第五、六合併号・2012年9月
- (2) 「『上海消息』に見る島津四十起宛芥川龍之介書簡」・秦剛・「芥川龍之介研究」第五、六合併号・2012年9月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)